

「子ども虐待防止」研修会

～注意すべき医科的、齒科的観点～



子ども虐待防止

オレンジリボン運動

日 時

平成30年10月6日（土）16:00～

場 所

北九州市総合保健福祉センター 2階講堂
北九州市小倉北区馬借 1-7-1

対 象

医師、齒科医師、教育・保育・行政関係者等

定 員

100名〈事前申込制〉

※定員を超えた後に申し込みをいただいた場合は、お断りのご連絡をいたします。

プログラム

開 会 16:00

【講演1】16:10～17:00

『子ども虐待医学 Up To date 2018』

北九州市立八幡病院小児科主任部長 神菌 淳司 先生

子ども虐待の医学的診断には、受傷機転や周辺状況への考察が必要であり早期診断には慎重な段階を踏む必要がある。社会的には子どもの身体的・精神的予後を考慮した初期対応とともに加害となった大人（多くが両親）への共感を同時に進めていく配慮とスキルも求められる。当院では福岡県子ども虐待対応拠点病院として、平時から養育環境不良・不全や虐待が潜在する家族に対応し、行政・児童相談所・検察・警察との連携を強化して対応を整備してきた。本講演では、まず身体的虐待を疑う「状況認識（気づき）」のノウハウとその後の臨床現場での対応を子ども虐待医学 Up To date 2018 として紹介する。地域に根ざした「気づき」の質の向上による安全と安心を、齒科医師との地域に根ざした強固な連携のなかで模索したい。

【講演2】17:10～18:00

『生活環境を守る番人としての齒科医療』

明海大学保健医療学部口腔保健学科設置準備室教授

日本子ども虐待防止齒科研究会会長 渡部 茂 先生

子どもの口腔は健全な生活によって維持されている。しかし家庭生活の営みにはとかく離婚、貧困、障害、病気など予期せぬ出来事が付きまとうもので、そのしわ寄せとしての育児放棄、ネグレクトは子どもの口腔に深く影響をおよぼすことが明らかにされている。口腔生活習慣病の専門医である齒科医は当然のことながら、彼らの口腔に影響を及ぼす生活環境のチェックを自らの診療システムに組み込む必要がある。

う蝕罹患の二極化、家庭・地域による健康格差は、毎日の診療においてしばしば目にする現象である。彼らの口腔が発する SOS に対し、彼らの生活を守る番人として我々は何をすべきか？ 本講演では、日本子ども虐待防止齒科研究会の報告を交えて、齒科医の虐待防止への取り組み、について模索する。

【質疑応答】18:00～18:10

参加申込

裏面、「参加申込書」に必要事項を記入し、平成30年9月28日（金）までに北九州市齒科医師会事務局あてにFAX（093-513-3651）してください。

【主 催】一般社団法人北九州市齒科医師会

【後 援】北九州市・北九州市教育委員会・公益社団法人北九州市医師会

「子ども虐待防止」 研修会参加申込書

(10月6日 総合保健福祉センター 2階)

FAX送付先 **093-513-3651** 一般社団法人北九州市
歯科医師会 宛



下記に記入してFAX送信してください。

フリガナ 参加申込者氏名	参加申込者 所属先	職種
	医療機関名等：	
	医療機関名等：	
	医療機関名等：	

※ お申し込みは、9月28日(金)までにFAXしてください。



北九州市総合保健福祉センター (アシスト21)
北九州市小倉北区馬借一丁目7番1号

